

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		糟屋子ども発達センター・さくら保育園			公表日	
					2025年 4月 22日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		その日の利用人数や流行している感染症状況を鑑みながら十分な活動スペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		事故や突発的な事態に備えて十分に配置しており、歩行援助などの配慮が必要な利用児には個別に職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		スロープや手すり、コーナーカバー等を設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		受け入れ前後で清掃・換気を行い、感染症流行期には室内、玩具等の消毒を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて活動部屋以外の個室等も使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務計画は話し合いのもと児発管が作成し、実施に関しては全ての職員が関与する。年度末に業務全体が計画に沿って行われたかどうかを児発管がチェックし、次年度の計画につなげている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートの結果を業務改善を考える際の参考材料としている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な面談を通して、職員の意見を把握し、業務の調整や改善を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		地域における障害児支援の中核的な役割を担う機関として、第三者による評価を受けている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部で研修を受けた際は適宜職員会議で周知している。内部では月に1回ずつ定期的にケース検討やスキルアップ研修を行っている。	座学だけでなく、実践で使える知識や技能を身につけられるよう、今後も研修の内容や方法を工夫していきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、HPに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面接を行い十分にアセスメントを行った上で計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管が主体となって関係がある職員と課題を確認し、計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		各職員が確認できるようにしている。また、モニタリング等で目標を再確認している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		自立支援と日常生活のための活動、創作活動、余暇の提供など組み合わせて積極的に行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		持ち回りで担当を決め、活動プログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節ごとに合わせた行事を取り入れている他、利用メンバーに合わせたプログラムを実施している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの状態や状況、保護者の要望に合わせて個別・集団を組み合わせ計画を立てているが、計画に盛り込んでいない場合でも臨機応変に対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		事前に参加する職員間で打ち合わせ、役割分担を行った上で実行している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日の利用者の行動について特記を記録し、業務報告会にて全員で共有している。会議に出られない者は、会議録を確認することを徹底している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		およそ6ヶ月ごとにモニタリング会議を行い、計画の見直しや修正を行って保護者に確認している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		自立支援と日常生活のための活動、創作活動、余暇の提供など組み合わせ積極的にやっている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		それぞれに合った方法で選択の機会を与えるようにしている。また、選択しやすいようきっかけを与えたり、選択肢を絞ったりして、自分で選ぶことができたと思えるよう工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管ないしはその子どもの担当者等、日常をよく理解している者を選定して参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、医療機関や保育機関との連携を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		児発管が中心となり、不備がないよう適切に対応し、学校側と協議・検討等を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		特に新1年生の場合は情報共有を行うよう努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		放課後等デイサービスとしても必要に応じて直接情報提供を行うこともあるが、計画相談を通して行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援事業と連携して情報を共有したり、研修に参加したりしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		放課後児童クラブや児童館に所属している子どもも一定数いる。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		定期的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用の際には連絡ノートを使用し、その日の活動や様子を伝えている。また保護者の要望や相談にも随時対応している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		情報提供は随時行っている。当センター内でも家族向けの研修や勉強会を企画しているが、実施まで至っていないため、今後準備を進めていく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に全て丁寧に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		日常の様子の引継ぎや面談等で家族や子どもの移行を確認している。必要に応じて担当者会議に対象児も参加してもらい、意見を話してもらうようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画を見せて支援内容の説明、確認を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		適宜行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	感染症流行期から保護者参加型の行事等は行うことができていない。保護者迎え時等に、きょうだいも一緒に連れてくる家庭もあり、多少の交流はある。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れについては対応した職員が児発管に伝え、適切に対応できるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		法人で発行している広報誌があり、ホームページで公開している。また、月ごとに季節行事を行う旨は施設パンフレットや説明書などにも記載し保護者へは利用開始時に説明している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に保護者から個人情報の取り扱いに関する同意を書面でも確認し、了承を得ており、乱用や流出のないよう管理を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		日々の活動内容等については連絡ノートを活用し、保護者に伝えている。また、子どもが不安やパニックを起こす要因を推測し、保護者に伝えるとともに、軽減できるよう解決策を提示している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	行事等では多少交流はあるが、現状としてはまだ少ない。	地域住民との交流も意識しながら運営していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し職員に周知し、発生を想定した研修や訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に各種災害を想定した訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		初回面談の際に、確認するようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーに関する情報を保護者から提供して頂き、給食、おやつの内容を栄養士とともに検討し、十分に配慮し提供している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、周知、確認できるようにしている。計画に沿って点検等を行うようにしている。	研修の内容、実施の仕方等は今後、より事業所にとって意味のある内容にしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練の実施内容をHPや連絡ノートなどで知らせるようにしている。	より効果的な周知の仕方を検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットに関わる事案は適宜会議などで周知し、全ての事案の記録を職員が誰でも閲覧できるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		行政機関などが実施する研修に加え、内部でも全職員が受講する研修を行っている。また、虐待に関する職員アンケートやセルフチェックを実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束については、計画やモニタリングに関する会議にて十分に審議し、やむを得ない対応を必要とする児童へは計画へ記載している。予期せぬ事故やトラブルに備えて、契約や計画の説明時などにどの保護者にも説明を行っている。	